

# 代表質問

市川市議会では、年4回の各定例会で、交渉会派（所属議員数3人以上の会派）の代表による代表質問を行います。2月定例会の代表質問は、市長の施政方針、教育長の教育行政運営方針及び新年度予算を含む市長提出議案等を対象とし、質問時間は会派の均等割り時間60分に所属議員数×15分を加えた時間です。質問は総括質問者が行う他、補足質問者を立てることができます。ここでは、代表質問のうち、会派が指定した項目の主な内容を掲載しました。

## 創生市川第2

〔総括質問者〕

松永 修巳

鈴木 雅斗

金子 正

### 公共施設の再編・整備

**問** 市は公共施設の再編・整備の方針とスケジュールを含む対象施設の個別計画を公表した。同案では原木中山駅周辺に、計画にない信篤公民館と同一敷地内にある体育館を改修、図書館を建て替えとしているが、こうしたハラハラの案では地域の理解を得られないのではないかと危惧している。各施設や地域の状況を精査した上で総合的に

**答** 市川漁港の整備については、29年度に防波堤が完成、現在は突堤を整備しており、30年度末の整備率は約50%を見込んでいる。31年度以降は物揚場や駐車場等を整備する予定である。また、漁業の担い手の確保・育成については、漁業従事者の意向調査や漁協との意見交換を進めている。本

### 市川の漁業

〔総括質問者〕

鈴木 雅斗

金子 正

**問** 市川漁港は、整備後約50年が経ち狭域化と老朽化が進んでいたところ、平成28年度から5年計画で新たな整備工事が進められているが、進捗状況はどうか。また、30年には行徳・南行徳の両漁協が合併して市川市漁協となったが、高齢化や後継者不足で漁業従事者は減っている。そこで、漁業の担い手の確保・育成について、市の考えを問う。

**答** 市川漁港の整備については、29年度に防波堤が完成、現在は突堤を整備しており、30年度末の整備率は約50%を見込んでいる。31年度以降は物揚場や駐車場等を整備する予定である。また、漁業の担い手の確保・育成については、漁業従事者の意向調査や漁協との意見交換を進めている。本



突堤の整備が進む市川漁港

満足度の高い施設としたい。

者の意向調査や漁協との意見交換を進めている。本

境の向上が見込まれること

も好機と捉え、今後も二

に即した支援策について

貢献しており、2年後に新

漁協等と協議していく。

## 公明党

〔総括質問者〕

西村 敦

中村よしお

久保川隆志

浅野 さち

宮本 均

大場 諭

堀越 優

松葉 雅浩

### 児童虐待対策

**問** 警察庁の調査によると、児童虐待の疑いがあるとして、警察が児童相談所に通

告した子どもの数は、平成30年には8万人を超え、14年連続の増となっている。市は、31年度からことも政策部に「虐待対策担当室」を新設することなどが、これによりどのような効果

**答** 近年増加傾向にある児童虐待に対応するには、児童相談所や警察だけでなく、市としても、関係機関との連絡調整や情報共有をしっかりと行い、水面下にある虐待の予兆を捉えていく必要があると認識している。本市では、児童福祉法に基づき、児童相談所や警察、社会福祉協議会等の関係機関で構成する「要保護児童対策地域協議会」を設置し、情報共有や意見交換等を行い、対策を進めてきた。今後は、これまで子育て相談全般及び、ひとり親家庭支援の業務と併せて行ってきた児童虐待関係業務を、新設する担当室へ移管するこ

### 行徳野鳥観察舎

〔総括質問者〕

浅野 さち

大場 諭

松葉 雅浩

### 特別支援教育

**問** 市は、様々な個性と可能性を持った子どもたちが、どのような課題に対し、市は

とで、専門性と業務の効率性が一層高まり、課題の解決が図られると考えている。

2階に観察スペースや休憩スペース等の設置を予定しており、ユニバーサルデザインにも配慮していく。また、今後の整備スケジュールとしては、平成32年度の開設を目指しており、本施設が県の事業である行徳湿地や野鳥病院の管理機能を併せ持つことも鑑み、県等に対し施設の概要案を提示し協議を進めると共に、関係住民を対象にした説明会を開催したいと考えている。

### いじめ相談窓口

〔総括質問者〕

浅野 さち

大場 諭

松葉 雅浩

### 特別養護老人ホーム

**問** 本市では、特別養護老人ホームの入所待機者解消に向け施設整備を進めているが、依然として待機者が多い状況である。介護者の

分けてなく共に学び合う教育環境づくりに努めているとのことである。しかし、我が子の学びの場として、特別支援学級と通常学級のどちらを選択すべきか、悩む保護者も多い。そこで、教育の場として通常学級を選択した場合、市はどのような支援を行っているか。

**答** 市は、多様な教育の場による指導を充実させるため、障がいの種別や地域パランスを考慮しつつ、特別支援学級及び通級指導教室を増設している。一方、通常学級に在籍する、支援を要する子どもへ向け、各学校では特別支援教育の視点を生かしたユニバーサルデザインの授業づくり等を行っている他、教育委員会では教職員向けに作成したり、フレットや学校訪問時の指導を通じて具体的な助言等を行っている。また、市川スマイルプランや個別の指導計画を作成し、学校全体で情報共有できる支援体制を整えている。今後も全ての子どもが共に学び助け合う、インクルーシブ教育システムの構築に努めたい。



平成31年3月にオープンした特別養護老人ホーム

**問** 本市では、特別養護老人ホームの入所待機者解消に向け施設整備を進めているが、依然として待機者が多い状況である。介護者の

ストレスや経済的負担の軽減のため、施設整備を一層進めていく必要があると考える。そこで、今後の施設整備の方針及び施設で働く人材の確保について問う。

**答** 特養の入所待機者数は、平成31年1月現在で215名であり、減少傾向にはあるものの、今後の高齢者人口の増加を見据え、31年度は大町、32年度には高谷に各々定員100名の施設を新たに整備する予定である。人材の確保については、30年度より「介護福祉士実務者研修費用助成事業」を開始し、市外在住者も助成対象とすることで利用者の拡大を図っている。また、施設の清掃等、特に資格を要しない介護現場の周辺業務をシニア世代に介護助手として務めてもらうことを目的とした、「シニア向け福祉のお仕事説明会」をハロワー市川との共催で実施する等、介護人材の不足の解消に努めている。